

総合防除の普及推進を図るための 令和6年度全国キャラバン（中国四国地区） 質疑応答

「香川県西讃地区のマーガレットにおける土壌還元消毒の実証」

香川県 西讃農業改良普及センター 安藤 岬氏

（協友アグリ）スライド9ページの秀品率が上がったという話だが、どこが良くなったのか。

（回答）実証農家からは、曲がりが少なくスラっとし、良く締まった、品質の良いものがたくさん採れたと聞いている。

○アンケートでの質問

（質問）米ぬかでは代用可能なのか。

（回答）当地域では米ぬかを使用した実証試験を行っていないが、他県では米ぬかを用いた土壌還元消毒の事例がある。

（質問）現行の土壌消毒剤（ダゾメット等）は殺菌だけでなく、除草目的も兼ねていると考える。土壌還元消毒は土壌消毒剤と同等、または代替となりうるだけの除草効果が期待できるか。

（回答）当地域での実証試験では除草効果を確保するため、ビニールの被覆を30日程度と長めに行った結果、土壌消毒剤と同等の除草効果を確認した。

「阿南市のきゅうり栽培における環境にやさしい防除技術の普及」

徳島県 阿南市農業支援センター 村澤 美結氏

（高知県）天敵を導入した場合、アザミウマ類の密度をゼロにするのは難しいと思うが、黄化えそ病の発生状況はいかがか。

（回答）検証を行った時期は、そもそもアザミウマ類自体の発生が少なかったことから、黄化えそ病の発生は多くなかった。

（高知県）天敵導入により、殺虫剤の使用回数は減ることから省力化は可能であると思う。しかし、きゅうりは病気の発生が多いので、結果として殺菌剤を長期間使い続けることになり、トータルでは省力化につながらないのではないか。

（回答）殺菌剤の省力化にはつながらないが、（殺虫剤の使用回数が減ることで、病気を媒介する）アザミウマ類に対して薬剤抵抗性の発達を抑えることができるというメリットがある。

殺菌剤を使う場合、そこに殺虫剤を混ぜて散布するので、（天敵導入により殺虫剤を混ぜる必要性が減り）結果としてコストを抑えることができる。

また、殺虫剤のみ散布する防除タイミングもあり、その機会をなくすことで、多少は全体としての省力化につながる。

「果樹ハダニ防除における天敵利用 ―〈w天〉防除体系を中心に―」

農研機構 植物防疫研究部門 外山 晶敏氏

(日本農薬) 今年のカメムシが問題になった。ハダニの天敵とカメムシの天敵はそれぞれ違うと思うが、共生できるのか。総合防除に取り組むうえで、結局、カメムシに対しては化学農薬を使用することになると少し違和感がある。ハダニ、カメムシともに、化学農薬以外の防除資材が今後使えるようになっていくのか。

(回答) カメムシの防除を考えると、非選択性の殺虫剤を選択肢に入れておかないといけない。天敵のカブリダニにとっては厳しい環境となる。

一方で、カメムシは毎年大量発生するものではなく、年次変動が非常に大きい。毎年、今年並みの防除をする必要はない。発生予測も踏まえて、バランスのいい防除を考えていく必要がある。

多目的防災網等の物理的防除を導入できるところは、経費の問題もあるが、カメムシに非常に効果が高いので、天敵利用に有利に働くと思う。

カメムシ防除については、ネオニコチノイドが使用できなくなると、さらに防除のバランスを考え直す必要が出てくる。もう少し様子を見て考えないといけない。

「愛媛県総合防除計画について」

愛媛県 農林水産部農業振興局農産園芸課 小川 遼氏

(山陽薬品) パブリックコメントで有機農業に関する意見が6件あったということだが、具体的に教えてもらえるか。

(回答) 例えば、水稻であれば密植を避けるなど、ほとんどが総合防除の内容に関する具体的な記載についての指摘であった。意見に対しては、原案のとおりで計画に掲載すると回答している。

(日本農薬) 病虫害防除指針と総合防除計画の関係性は今後どのようなようになっていくのか。

(回答) 病虫害防除指針は化学農薬を全般的に取り扱っており、化学農薬の防除について現場で指導する際に使用するもの。病虫害防除指針のなかにも耕種的防除の記載はあるが、それだけではない部分も記載されているのが総合防除計画となる。

(日本農薬) 国、県として化学農薬を減らすという方向性であれば、病虫害防除指針をなくせばいいのではないかと思うが、そこまでドラスティックにはいいかないのか。

(回答) 愛媛県では、病虫害防除指針については試験場の試験結果を踏まえて作成している。農薬情報を全部載せているわけではなく、そういったところでは違いがある(必要性がある)と考えている。

「高知県における殺菌剤耐性菌対策技術」

日本植物病理学会 殺菌剤耐性菌研究会 下元 祥史氏

(香川県) 抵抗性管理の観点で高知県独自で使用回数の制限を設けているが、生産者から反発はないのか。抵抗性管理という説明で納得していただけるのか。

(回答) 生産者側にそこまでの制限は設けておらず、あくまで指導者側の指導内容としての使用回数制限である。最終的には生産者の判断になるので、そのような反発はないと思う。